



平成22年7月26日

各 位

上場会社名 大倉工業株式会社
 代表者 代表取締役社長 高浜 和則
 (コード番号 4221)
 問合せ先責任者 常務取締役コーポレートセンター担当兼経理部長 豊田 員史
 (TEL 0877-56-1111)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成22年5月13日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成22年12月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年6月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	38,200	450	300	250	4.08
今回発表予想(B)	38,770	880	710	820	13.39
増減額(B-A)	570	430	410	570	
増減率(%)	1.5	95.6	136.7	228.0	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年12月期第2四半期)	34,495	△10	△58	△984	△16.06

平成22年12月期通期連結業績予想数値の修正(平成22年1月1日～平成22年12月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	81,600	1,050	600	150	2.45
今回発表予想(B)	80,000	1,250	850	550	8.98
増減額(B-A)	△1,600	200	250	400	
増減率(%)	△2.0	19.0	41.7	266.7	
(ご参考)前期実績 (平成21年12月期)	73,228	1,073	740	△1,745	△28.49

修正の理由

(1) 第2四半期累計期間

(a) 売上高

合成樹脂事業部門は、農業用や産業資材用フィルムを中心に販売が順調であったことにより、新規材料事業部門は、液晶表示関連材料の需要が想定以上に回復したことにより、前回予想値を上回る見込みです。しかし、建材事業部門は、住宅市場低迷の影響を受け、前年対比では伸びたものの大幅に前回予想値を下回る見込みです。その他の事業部門では、ホテル事業において宿泊単価の下落等により、また、ハウス事業において予定していた販売が一部下期にシフトしたことにより、前回予想値を下回る見込みです。

以上の結果、売上高合計は、前回予想値を5.7億円上回り、387.7億円と見込んでおります。

(b) 営業利益、経常利益及び純利益

合成樹脂事業部門、新規材料事業部門は売上高の増加に伴い、営業利益が前回予想値を上回る見込みです。建材事業部門、その他の事業部門では、固定費の削減や生産効率の改善等により、営業利益はほぼ前回予想どおりとなる見込みです。

以上の結果、営業利益は、前回予想値を4.3億円上回り、8.8億円と見込んでおります。

経常利益及び純利益については、営業利益の増加に伴い、それぞれ4.1億円、5.7億円、前回予想値を上回る見込みです。

(2) 通期

下期の売上高につきましては、世界経済は回復基調が継続しているものの減速モードが高まっていること、日本経済も回復は続いているものの輸出・生産・個人消費に鈍化傾向が見られること等を踏まえ、各事業部門とも上期に比べて売上の大きな伸びは望めないものと予測しております。

したがって、通期の売上高は前回予想値を16億円下回るものと予想します。

下期の利益につきましては、原料価格の上昇や競争の激化が懸念されることから上期ほどの利益は見込めず、通期の営業利益は2億円の改善にとどまるものと予想します。

経常利益、純利益につきましても営業利益と同様にそれぞれ2.5億円、4億円の改善にとどまるものと予想します。

※本資料に記載されている将来の業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報に基づく将来の予測であり、潜在的なリスクや不確定要素を含んだものです。そのため、実際の業績はさまざまな重要な要素により、記載された見通しと大きくかけ離れた結果となりうることをご承知おきください。

以 上

平成22年7月26日

業績予想の修正に関する参考資料(連結)

大倉工業株式会社

1. 平成22年12月期第2四半期連結累計期間業績予想数値の修正
(事業の種類別セグメントの業績状況)

(単位:百万円)

項 目		前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売 上 高	合成樹脂事業	23,100	24,050	950	4.1	22,162
	新規材料事業	7,700	8,730	1,030	13.4	6,478
	建材事業	5,100	3,960	1,140	22.4	3,708
	その他の事業	2,300	2,030	270	11.7	2,147
	計	38,200	38,770	570	1.5	34,495
営 業 利 益	合成樹脂事業	1,700	1,950	250	14.7	1,997
	新規材料事業	150	320	170	113.3	62
	建材事業	700	690	10	-	1,342
	その他の事業	50	60	10	20.0	110
	消去・全社	750	760	10	-	712
	計	450	880	430	95.6	10
経常利益		300	710	410	136.7	58
当期純利益		250	820	570	228.0	984

2. 平成22年12月期連結通期業績予想数値の修正
(事業の種類別セグメントの業績状況)

(単位:百万円、%)

項 目		前回発表予想	今回修正予想	増減額	増減率	前期実績
売 上 高	合成樹脂事業	48,300	49,300	1,000	2.1	46,750
	新規材料事業	17,600	17,700	100	0.6	14,349
	建材事業	11,000	8,700	2,300	20.9	7,684
	その他の事業	4,700	4,300	400	8.5	4,443
	計	81,600	80,000	1,600	2.0	73,228
営 業 利 益	合成樹脂事業	3,150	3,450	300	9.5	4,404
	新規材料事業	500	550	50	10.0	259
	建材事業	1,350	1,350	0	-	2,384
	その他の事業	200	150	50	25.0	241
	消去・全社	1,450	1,550	100	-	1,447
	計	1,050	1,250	200	19.0	1,073
経常利益		600	850	250	41.7	740
当期純利益		150	550	400	266.7	1,745

3. 借入金の圧縮状況について

当第2四半期累計期間においては、流動化の廃止を中心に残高圧縮に努めた結果、実質ベースでは前期末比で約36億円の返済を行い、引き続き財務の健全化に努めております。

(単位:百万円)

	22年6月末残高	前期末比増減額
金融機関等の借入金	24,789	1,023
リース債務	4,156	287
割引手形 + 流動化実施額	3,395	4,333
合 計	32,340	3,597

以 上